



たまご たまご
卵をもったザリガニは、いつまで卵をかかえているの

しぜん なか か
自然の中でのザリガニのふ化のようす

たまご う たまご じぶん ふくぶ いし
卵を産んだザリガニのメスは、ねん液で卵を自分の腹部に、とりつけます。そして、石
した すあな からだ たまご しんせん みず おく あたた
の下などの巣穴にもぐり、ときどき体をゆすって、卵に新鮮な水を送っています。暖か
きせつ しゅうかん たまご か たいちよう まる
い季節なら、2週間ぐらいで卵はふ化し、体長4ミリメートルくらいの、丸いこうら
もったザリガニの赤ちゃんが出てきます。短いしっぽをもち、しっぽの先に糸のよう
のがついていて、出てきた卵の殻とつながっています。ふ化して2週間後までは、赤
あか
ちゃんは、お母さんザリガニの腹部とつながっていて、少しずつ食べ物のかけらなどを食べるよ
うになります。糸のおかげで、お母さんが動き回っても、水の流れの強い所でも、ザリガ
あか
ニの赤ちゃんは、おなかにしがみついたまま安全です。ふ化して3週間もたつと、ザリガ
こ
ニの子どもは、お母さんの腹からはなれ、自分でえさをとって生きていくようになります。

か ちゅうい
飼うときの注意

たまご すい
卵をかかえたザリガニは、1ぴきだけ、水
そう い か
そうに入れて飼います。また、たまご か
卵がふ化し、
ちい かあ
小さいザリガニが、お母さんのおなかからは
なれて動き回るようになったら、親は別の水
うご まわ おや べつ すい
そうに移します。こうしないと、おとなのザ
うつ
リガニに食われてしまうからです。えさは、
おや おな さかな にく はん
親と同じ、魚の肉、にたイモ、ご飯、ハクサ
こま き
イなどを、細かく切ってあたえます。

(監修・安部 義孝)

